丸山湿原群保全の会会報

（第 120 号）

発行日：平成 29 年 7 月 14 日　編集／発行：丸山湿原群保全の会

〒669-1211　宝塚市大原野字炭屋 1-1　西谷地区まちづくり協議会事務局内
TEL/Fax0797-91-1788
090 - 1895 - 8061（今住）
E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com

やっと梅雨らしくなってきました。おかげさまでひび割れの田んぼ、どろ樋が出かけていた溜め池も満水となりました。かたや九州北部では大水害。線状降水帯による記録的な短時間雨量で人命も多く失われ、今現在も行方不明者の捜索が続いています。ご冥福と早期救助をお祈りいたします。

毎年こんな話になっているようで、やはり地球規模の気候変動が本格化しているに違いありません。**第６次大量絶滅時代と言われているようですが、人類もその中に含まれることをしっかり認識する必要があるように思います。**パリ協定・・・やっぱりアメリカが！

（今住　７月 12 日作成）

環境学習

★6 月 15 日（木）西谷小学校３年　環境学習２回目（フィールドワーク①）

６月３日（日）の座学に続き、実際に丸山湿原へ。**阪急田園バスから降りてくる姿は元気そのもの。**若さが眩しい光景です。

悲しいほどの？晴天

整列後元気にあいさつをしてくれました。**私たちの名前を憶えているか不安でしたが、お見事！名前を大きな声で言ってくれました。フィールド学習は３名のガイド（外部ティーチャー）、新しいメンバーを紹介後、本日観察できるものでハッチョウトンボ、トキソウはしっかり観察してねとレクチャー。**そしていざ出発。先生方３名、保護者２名。加えて謎のカメラマン（600mmレンズも用意）も同行。総勢 21 名。（やはり少ない？）

途中食べられる葉っぱや、**サワガニ・ササユリ・ギンリョウソウ・ツチアケビ・タゴガエル（ニホンアカガエル？）**などを観察しながら進んでいきました。

植物類にはどちらかといえば関心は少ない様子。**カニ、カエルには敏感に反応。ただ、ギンリョウソウについては、別名ユウレイグサを事前学習していてインパクトが強かったのか飛びついていました。やはり名前のイメージは興味を呼ぶものだと驚きました。**花自体のインパクトもあるのでしょう。咲きかけの状態だったのが少し残念。

湿原では、**ハッチョウトンボの小ささ（１円玉の大きさ）を実際見てびっくり。トキソウには「ふーん？」まー感じ方は人それぞれです。これも生物多様性（DNA の多様性？）。**

帰り道は慣れてきたのか少しやんちゃぶりも見えてきました。**枯れ木の中からオオゴキブリを紹介。ゴキブリと聞いて後ずさった子も、生態の説明を聞いてかわいくなったのか、手の上でかわいがっていました。そして、松の枯れ木をキック！自分でも見つけ出しま**

仲良しになったオオゴキブリ（幼虫）と

活動最後のふりかえりと確認

した。「相手をよく知ること」は「仲良くなること」をしっかり学んでくれたように感じます。人間関係の中でも同じ。

「いたずらに恐れる必要もない」ことも学べたのでは。環境学習の目標でもあると思います。

天気も悲しいほどの快晴（雨不足で泣いてましたが）、気持ちの良い半日を過ごせました。次回は 2 学期。楽しみにしています。皆さんご苦労様でした。ところで謎のカメラマンは何者だったのでしょう？とっても素敵な方でした。またご一緒できればと思います。みなさんありがとうございました。

活動報告

６月 25 日（日）定期観察　12 名で活動　小雨・観察台設置場所検討・冬場の作業方法検討（午後定期総会）

傘・カッパを着て出発

午後から定期総会があるため、観察と今後の課題検討の活動となりました。県からも担当の方が来られ、**顧問とともに観察台の増設場所の意見交換。保全方法（ヌマガヤ等の剥ぎ取り場所検討）等々。**

小雨は途中で止みましたが、蒸し暑さの中ご苦労様でした。

総会の内容については、最後に報告します。

★観察台・保全計画検討

第 1 湿原を、より水辺近くで観察できる場所を確保できないかと県からの提案。私たちも同意見ですが、**湿原内（コアの部分）に踏み込みが増える心配があります。**現在、第４湿原に観察台が設置されましたが、結局水際まで遠くトキソウが奥で群生している場所まで**踏み跡ができている状態**です。一人が入り、少し道ができると罪の意識はどんどん失われ大きな道になっていきます。現在それほど大きなダメージにはなっていませんが、やはり**踏み込まずに観察できる場所が必要**なのではと思います。

網引湿原では、間伐した杉の丸太を湿原の中に設置し、遊歩道にされています。遊歩道のすぐそばにトキソウの群生があり新聞報道もされていました。ただこれも問題ありで、盗掘が出てきているようです。（関係者談）しかも注意すると逆切れもあるとか。これはマナーの問題ですが。

中心部が踏まれた第４湿原

道が出来た第４湿原内

結局、現在ある展望台から湿原内に降りる形で、観察台を設置する方向になりました。加えて、水辺をより近くするために、第４湿原の観察台際まで、ヌマガヤの剥ぎ取り（土の掘り下げ）をしてみてはどうかという意見が出ました。植生がうまくいくかどうかは不明ですが、少なくとも**観察台近くの流水面が増える**ことは間違いないと思われます。実施の方向で検討します。

【観察できた動植物】

コバノトンボソウ

【コバノトンボソウ】（小葉蜻蛉草）　県 RDB　C ランク

例年になくたくさんの**コバノトンボソウ**が観察できます。やはり湿原内のヌマガヤ刈り取りが効果的だったのか。それとも雨不足が功を奏したのか。はたまた今まで気づかなかっただけなのか、さっぱりわかりませんが本当にたくさん確認できます。**ただ地味。結構大きいのですが保護？色になっていてどこにあるのかわからない。ハッチョウトンボの緑（植物）版です。花の大きさもほぼ同じ。ラン科。同じ仲間にオオバノトンボソウがありますが、こちらは陸生。シオカラトンボとハッチョウトンボの違いのイメージで、オオバノトンボソウは下の葉が大きく花の茎も太い。よく目立ちます。**

対して**コバノトンボソウはとにかく繊細。花の茎もとても細い。しかも、か細い葉を一枚だけ持つのが普通**というから超省エネ設計なのでしょう。葉が一枚なのはウメバチソウも・・・でもタイプが違うな。とにかくかわいい花です。

【ヤマトキソウ】（山朱鷺草）県 RDB　C ランク　43 都道府県で RDB 指定

発見されたヤマトキソウ

これも地味。**顧問が湿原山側の水たまり付近で見つけました。丸山湿原群未記載種。**多分あるとは思っていましたが、とにかく見つけにくい。

やはりラン科。トキソウのように大きくならない。**15 ㎝ぐらいか？しかもまず群生しない。まばらに、咲き、毎年同じところで咲くとも限らない。花は開ききることなくやや雌しべが見える程度。**

この株は終わりかけの株。４日後の 29 日には緑に結実。７月８日にはどこにあるかもわからないという代物です。たった１株しか見つかっていません。どこかに隠れているに違いありませんが、今後見つけられるかはなんとも。花期は６月の初めぐらいから７月？（あくまで経験値）

29 日のヤマトキソウ結実？

43 都道府県で RDB 指定されているのに、環境省 RDB 指定はなし。不思議なことですが、実際の分布がわからないのと、地味すぎて盗掘の可能性が少ないからかもしれません。ただ抜け落ちているだけかもしれませんが・・・

丸山湿原の植物はみんなそうですが、とにかく貧栄養がポイント。前出のコバノトンボソウも同じ。食虫植物が咲くような土、栄養分を持たないところでしか生きられない植物です。

あると思ってみれば見つかることも多い。来年からは目を完全マクロ状態で頑張りましょう。また未記載種が見つかるかも？

参考　最大開花状態（玉瀬地内で撮影）

★7 月８日（土）定期活動

11 名で活動（卒論研究参加者１名・一般参加者１名を含む）

定期基礎調査、巡回、ごみ回収、観察、外来種除去　研究協力

目的	市内	市外
丸山	35	39
ハイキング	12	9
その他	0	1

場所	時間	気温【水温】	電気伝導度	PH
入口	9：55	27.5℃		
視点場	10：54	30.2℃		
第３湿原	10：35	【24.5℃】	34.6μS/cm	6.6
第１湿原	11：20	【29.0℃】	39.9μS/cm	6.9
第２湿原	11：55	【30.0℃】	37.4μS/cm	6.9

来場者数　計 96 人

（竹筒ポスト人数）

【大賑わい】

今回は総会後最初の活動日。人数も少なく寂しい活動になると思いきや。**卒論協力依頼の学生を含む 11 名と大賑わいになりました。**ただ蒸し暑い！気温も 30 度越え。湿度も高く熱中症の心配もありました。

そこに、**フレッシュな方が一人入るだけで、元気になるから不思議なものです。**どんな研究にまとまるのやら興味津々です。協力は惜しみませんので頑張ってください。

【観察できた動植物】

【オオバノトンボソウ】（大葉蜻蛉草）

オオバノトンボソウ

前出の**オオバノトンボソウ**です。ラン科。やはり地味。コバノトンボソウと違い、**里山の林縁や林床に見られます。**丸山では歩道のすぐ横や刈り取った林の中によくあります。

しかしなかなか花までは見ることができません。理由はよくわかりませんが、**何かに花を食べられるのではないかと思っています。（私説）特にニホンウサギ（ノウサギ）が食べるのではないかと。**

この花は、コバノトンボソウをごつくした感じですが、特徴として**花のトンボに見える部分の尾が下に下がっています。コバノトンボソウは跳ね上がっているので逆になります。**

また、名前の通り葉は分厚く大きい。この花も多年草。しかし毎年同じところで咲くとは限らない。養分を蓄える期間が必要なのか？共生菌がなくなるのか…不思議で面白い。

【ニホントビナナフシ】（日本飛七節）

駐車場で集合中に**会員の肩にとまった虫。バッタ？ナナフシ？いや最近はナナフシモドキ！**よくわからなかった。帰って調べてみると、**ナナフシという和名の虫はいない。通常ナナフシと呼んでいるのは、ナナフシモドキが正式和名。**木の節を多く（七）持っているみたいなという意味らしい。擬態をモドキに込めた？でもナナフシでいいようだ。**さらに画像を調べてみると、背中に羽根のようなものが。体側には黄色い線。ニホントビナナフシの特徴と判明。**

大きくなると茶色（木の枝の色）になるので幼虫ということに。**やはり若者らしくツッパッた雰囲気が。反抗期でしょうか？メンチ切ってます。（ガン飛ばす？）動きが鈍いわりに精悍でかっこいい！（動きが鈍いのは擬態がうまいからだそうです。だから、なかなか見つけられない。）**

【ハッチョウトンボ♂♀】（八丁蜻蛉）はそろそろ全盛期。あちこちで目を凝らせば確認できます。今回画像はつけません。【ツチアケビ】（土木通）**ですがなぜか弱っています。**先を落としてしまったのが悪かったのか原因は不明。今年はあの赤い実が見られないかもしれません。（私は嫌いですが）別の場所で生えているかも。【カキラン】（柿蘭）も多いですがそろそろ終盤を迎えています。

【ナラ枯れ】

木くずが噴き出したコナラ

今年も**カシノナガキクイムシが猛威を振るいそうです。**歩道沿いのコナラにもマスアタック（集団攻撃）した後が見られました。おそらく**８月か９月には葉が真茶色になり、枯れてしまうでしょう。**比較的古木につくため、木の更新に役立つ面もあるそうです。**カシナガホイホイなど防除も推奨しているようですが、あまり意味がないようです。（ご神木などの保護は必要）５年前後で収束へ向かうとか。じっと耐えましょう。**

江戸時代の記録にもあるそうですから、そんなに神経質になる必要無しです。顧問からのお墨付きもいただいています。

6月 25 日（日）総会報告

会員総数 27 名　出席 14 名　委任 11 名

左記議案はすべて承認されました。役員も昨年と同じで承認。よろしくお願いいたします。

①今年度の活動計画で、**山門湿原への研修日程が８月 24 日（木）に変更。平日ですがご承知ください。**案内は別途いたします。

②宝塚市のエコ講座受入日が８月 27 日（日）に変更となっています。

③今年度は**冬場の復元活動を頑張りたい**と思いますので、ご協力を。

④今不足している**パンフレットの新調**も提案され、作成の方向で検討します。お知恵があればご提案を。

⑤ビギナー向けではありますが「**丸山湿原植物図鑑」を希望者には配布します。**ご希望の方はご連絡を。

（約 10 年前にセミナー用に作られたミニ冊子です）

- 次回活動日７月２３日（日）8月 12 日・19 日
- 7 月 23 日は第１・３湿原のササ刈り予定。場合により１日の活動かも。しかし、無理はしないように！
- ８月 19 日は恒例のサギソウ開花数調査。ご協力を！
- 里山博物館主催の湿原ツアー（丸山～皿池）が８月 20 日に企画されています。希望者は各自お申込みください。（丸山はガイドしながら参加 OK。一応ガイド３名は確定していますが…）

議　案

(1) 2016 年度活動報告
(2) 22016 年度決算報告
(3) 会計監査報告
(4) 2017 年度新役員選出
(5) 2017 年度活動計画（案）
(6) 2017 年度予算（案）
(7) 提出議題及び懸案事項
・確認事項（申し合わせ・会費等）
(8) その他、質疑応答

全 22 ページ　60 種掲載